

出会い ふれあい 助け合い

サロンのあべの

Vol. 141



△サロン・あべの2月の出会い
 NAGANOオリンピックで
 日本中が沸いていた平成十年二
 月二一日(土)午後一時〜四時、
 育徳コミュニケーションセンター二階

あなたとわたしのスポーツ自慢
 「ふれ愛びつく大阪」よもやま話

PART 2

研修室に於て、「ふれ愛びつく大阪 よもやま話」をテーマに「ふれ愛びつく大阪」の金メダリスト、糞谷終一氏をお迎えし、お話を伺いました。

糞谷氏は、事故で頸髄損傷障害を受けて、車椅子使用者になりました。その後スポーツとは

縁遠いものと思う生活を送っておられたが、国際障害者年で障害者がスポーツをしているのをテレビで視て、考えを一新、自分もやってみることに・・・。

早速、長居の身障者スポーツセンターで指導を受けました。まず、車椅子をスポーツ用に変

えて練習に入ったのが十二年前。首から下にマヒがあり、手や指の力は弱いながら、やろうとする強い意志で、残っている機能を養いつつ体を鍛えて、十年前に沖縄で開催された全国身体障害者スポーツ大会に初めて参加されました。

また、昨年五月二四日・二五日に開催した「ふれ愛びつく大阪リハール大会(長居競技場他で開催)」では、藤井寺市の選手団の一員として参加されました。その時の選手の中から大阪府選出の代表選手として、第三三回全国身体障害者スポーツ

大会「ふれ愛びつく大阪(於・長居公園内競技場他)」に出場されました。

今までは、この全国身体障害者スポーツ大会への出場は一障害者の一生に一回と決められていました。しかし、昨年の第三回より、四〇歳未満の一部と四〇歳以上の二部が設けられました。それで、糀谷氏の二度目の出場が可能となりました。

糀谷氏は、昨年のこの時、車椅子スラロームと車椅子卓球の種目に出場されて、共に金メダルを獲得。この日を迎えるために、夏のさ中本番さながらの練習に取り組まれました。頸髄障害があると発汗作用が難しく、暑さの中での練習は厳しく、氷で体を冷やしながら行われたそうです。その成果が金メダルということですが、競争の激しい全国大会で金メダルを獲得するにはそれなりの秘策も必要と話

されました。

まず、自分の障害をよく知り、どのような出場種目があるか、それが自分にとってどの程度の難度かを考える。出場種目は二種目エントリーしなければいけないが、自分にとってメインの種目を重点に練習する。

糀谷氏は車椅子六〇m競走では対戦者の方が勝つて(まさ)いるだろうと考えスラロームをメインにしたそうです。

地元開催でもあり、全員参加

の練習では場所(吹田の体育大)や多くのスタッフにも恵まれていたそうです。

宿泊先であるホテルニューオータニでは、皇太子ご夫妻をお迎えして前夜祭・壮行会が開催され、皇太子ご夫妻に身近に接することが出来、お声を掛けられたことの喜びを聞かせていただきました。そして、その時の記念写真を金メダルと共に見せていただきました。

また、サロンには大阪府代表

者に支給された洒落たデザインユニホームを着用されたのご出席で、昨年の勇姿と雰囲気は偲ばれる雰囲気を出して話をして下さいました。

お話を伺った後、参加者から貴重な体験を今後の後進の指導に生かしてもらいたい。これからの若い障害者の方には、一度や二度という参加でなく、パラリンピックを目標に...という力強いエールも送られました。

参加者15名 (富田慶子)

お 報 告

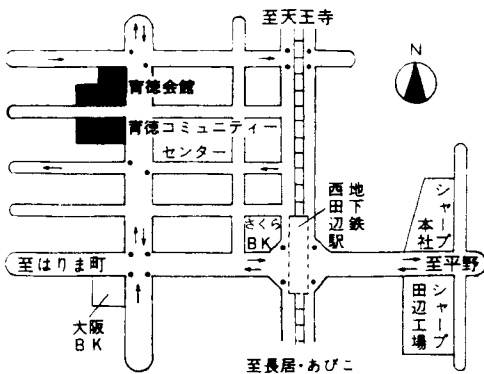
<サロン・あべの>4月の出会い

日時 4月18日(土)午後1時~4時
場所 育徳コミュニティセンター研修室
[大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
スロープ・車椅子トイレ有り]
テーマ 「色による心の癒し」
~色と五感を使って~

パネラー Making Color(色彩研究所)主宰
福永享子氏

会費なし
お問い合わせ先

TEL06-691-1028(富田慶子)



作る つくる 創る 河合恵子

お菓子の話

男の子は何でできてきている？

男の子は何でできてきている

蛙にでで虫、それに子犬の尻尾――

男の子は、そんなものでできてきている

女の子は何でできてきている？

女の子は何でできてきている？

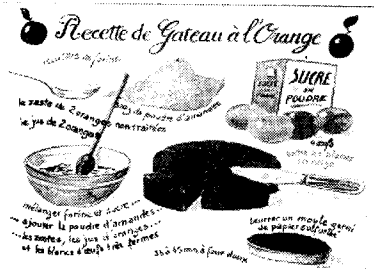
砂糖に香料、それにいいものばかり

女の子は、そんなものでできてきている

これはイギリスの童謡、マザーグースの「博物学」というタイトルの一節。

古今東西を問わず、女の子は甘いものが大好き。もちろん男性の甘党も多いこととは思いますが、かのバレンタインデーも西欧では女の子にお菓子や薔薇の花を贈るとか。もつとも、この日は本来は三世紀頃、イタリアのウンブ

リア地方に生まれ、殉教した聖バレンタインの祝日。やさしいバレンタインの肩ではつがいの小鳥がさえずっていたといい、花や鳥のうたいだす春をたたえた祝日でもあるそうです。二月十



四日ではまだまだ寒いですが、美しくておいしいチョコレートやケーキなどをいただくながら、春を待つというものは心が暖かくなるもの。

ところで昨年のことですが、なんと

一年三六五日それぞれの日にちなんだお菓子を会場いっぱい並べた展覧会があり。またそれにちなんだ「365日の幸福を呼ぶお菓子」（今田美奈子著）という本が発行されました。

さてこの本に書かれた二月二一日のお菓子はレモンケーキ。「果実屋で一個のレモンを手に入れ、その色、形、重さ、手触りを確かめることで幸福感を覚える・・・」というのは梶井基次郎の小説「檸檬」。ヨーロッパの王侯貴族たちも鉢植えにして観賞し、レモンの木で作る家具も幸福を招くとか。材料は卵三個、砂糖一七五グラム、塩二グラム、レモン表皮二分の一、バター一五〇グラム、生クリーム七〇CC、薄力粉一二五グラム、アーモンドスライス、アプリコットジャム、レモン汁。

二つの目

震災を受けて、まだ半月ほどしか経たない神戸で、ボランティアの動きが錯綜する中、ある人が言っていました。「鷹の目と虫の目をもっていなければいけない（「鳥の目」だったかもしれない）」「つまり、短期的な展望と長期的な展望とを同時にもって、物事に臨まなければいけない、ということだそうです。時に、私たちは「虫の目」だけ、または「鷹の目」だけで、よしと、しがちです。しかし、どちらか一方のみでは、自分達が今、どこに向かって、何をしているのかが、分からなくなってしまう。

障害のある当事者運動のリーダーは、両方の「目」をもっている人が多いと思います。最終的な到達点を見越した実践がなされていると思います。何が確かなことなのか、頭でなく、身体が知っているというのでしょうか。

当事者の声・本当の声

国の「障害者プラン」では、個別のケ

アプランの中で、サービスの質と量とがいかん保障されるか、ということが、争点となっているようです。介護保険法でも同じです。しかし、当事者から言うならば、サービスの質・量云々以前に、個別ケアプランをつくること自体、必要としていません。ケアプラン実施後、生じうるのは、「制限された生活」であることが、容易に想像できますから。

知的障害のある人を扱った、ドラマ『聖者の行進』を見た、軽い知的障害のある友人は、「あんな知的障害者いないよ」と言いました。

また、ある人に、とにかく一度見るようにと進めると、はじめ「そんなドラマ見たくない」と言いましたが、その後、彼女はドラマを見て、怒りの電話を掛けてきました。

社会が、こうも間違った見方をしていと思うと、悲しくなります。

また、自分とは異なる人を、こういうものと、決めつけてしまうのは、差別そのものであることに、なぜ、気付かないのでしょうか。

女性、子ども、有色人種、障害者、様々な差別に対しての社会運動がなくなる世の中を、私たちは「鷹の目」として、もつべきです。

残念ながら、それらの運動が、もっと盛んにならなければいけない今日です。このような中、当事者の声は、唯一のものとして、表に出るべきですし、尊重されなくてはなりません。

当事者を中心とした「虫の目」としての、地道な実践が、今後とも続けられていくでしょう。そして、社会は、差別を受けている人々から、学んでいくでしょう。

(完)

障害のある人の当事者運動に接する中、様々な情報をお届けしてきました。

紙面を通じて、様々な人との出会いがあったばかりでなく、日々の自分と向き合うよい機会ともなりました。

感謝致します。

最後に、石田様、富田様、『サロンあべの』をご紹介頂いた岡様に、改めて感謝致します。

★ 考えること

テレビに、ロダンの「考える人」の像を模(も)したコマーションヤルが流れている。それは、なにかを決められずに迷っている姿だ。「考えること」は「迷うこと」として描かれている。

たしかに人は迷うときに考える。どちらかを選ばなければならぬときに、ロダンの像のように考えるのだろう。

しかし、私たちは、どんなに充分に考えても、しばしば、あとになって間違った選択に気づく。選ぶ前に、すべての状況が明らかにはならないからだ。選んだあとに初めてわかることが少なくない。

そのため「考えても仕方がない」と人々は言う。考えることが軽く見られてしまう。

また「私は考えないほうなので」と笑う人に出会う。決して卑下して言うのではない。おそらく考えることを軽く見ているのだろう。話を聞いてみると、その

人にとつては「考えること」は「悩むこと」である。「考えても仕方がない」とは、言いかえれば「ぐずぐず悩んでも仕方がない」ということだ。

ロダンの「考える人」は、人々の目に



は「悩む人」に映る。頭をかかえてはいないものの、顎(あご)に拳(こぶし)を当て、口を厳しく閉じた姿は何かに苦悶している様子に見える。

「私は考えないほうなので」と笑った

人は、自分を楽道家と思っていた。ものごとを悲観的に考えない、どれを選択しても、やってみればうまくいくという自信の表現なのかもしれない。

日常の繰り返しが何かの理由で遮断されたら、新しく選びなおさなければならぬ。そのときに人は考える。ところが、考えに考えてみても選択後のことは確かではない。だから「考えても仕方がない」と思い、考えることをやめる。それ以上、考える人は悲観的であり、ものごとの暗い面ばかりを見る人と思われてしまう。

しかし、実は、迷っていないときこそ考えなければいけない。日常の流れのなかで、とくに支障もないときに立ち止まり考えたい。

決断を迫られるときには、深く考えられないものだ。時間にも気持ちにも余裕がない。どちらかを選ぶときに、その二つか三つの選択肢を比べるだけで、その

比べるとききの基準を自分がどこにおいているのか、自分の生き方の根底にあるものが何なのか、それに思いを寄せる余裕がない。

春が近づき、平和な日々が昨日と同じように今日も続くと思えることができたなら、そのときには悩むことなく考えられる。うららかな陽の下で、どこまで真摯に各人の心の芯にあるものを探ることが出来るか。そこに、いつかは波のように打ち寄せる苦悩の日々をいかに迎えられるかが、かかっている。(知)

春一番

「春一番」から膨らむイメージは「もうすぐ春ですね」とヒットした歌、立春が過ぎて初めて吹く強い南寄りの風、そして「春一番」という名の生ビール。
なにがなんでも「かるた」です。

解説者 かねた厚子 三〇四

二十一世紀のV活動とは・・・

表谷恵美子

街路樹にも春の芽生えを感じる二月二十一日、大阪国際交流センターに於いて「大阪市ボランティアセンター開設十周年記念シンポジウム」が開催されました。

第一部は、大阪市立大学の山縣文治教授をコーディネーターに、四人のシンポジストが「二十一世紀へのボランティア活動を探る」をテーマにそれぞれの立場からの意見を交わされました。

大阪ボランティア協会の岡本栄一理事長はV活動全般を、「地域化」「高齢化」「国際化」「市民化」「教育化」の五つの課題に分け、将来の方向性について話されました。

大阪ガスいきいき市民推進室長の松井淳太郎氏は、企業が利潤を追求だけでなく、社員各々が住民として地域に関わることの必要性と大阪ガスでの社員教育の実際を、また、連合大阪の湯口安彦副事務局長は、労働組合の取り組んできた、カンパから始まった様々な社会貢献の歴史と今後の課題について話されました。

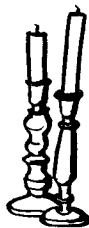
教育者というお立場の、桃山学院大学 上野谷加代子教授は、ご自身がV活動によって

育てられた経験や、地域でのコミュニティ作りの必要性和親が子に伝えていく教育の大切さをお話し下さいました。

四氏のお話をうかがって、これからのV活動は上からの押しつけでなく、地域、個人に立ち返ることが、逆に個人を変え、地域、社会を変えていくことが解り、私もボランティアするもの、されるものの区別なく暮らせる社会の一員として生きていきたいと思えました。

第二部は「マリオネット」のお二人によるポルトガルギターとマンドリンの記念コンサートが催されました。が、私は時間の都合で残念ながら聞くことができませんでした。ギターの湯浅隆さんのソロが、今春から放映されるNHK「名曲アルバム」の「コインブラ」で聴けるといふニュース、それを楽しみにしています。

感謝



お茶菓子、バザー用品などのご寄贈、またサロングッズのお買いあげ、ありがとうございました。お礼申し上げます。

あべのはーと、河合恵子、目 和子、宝示愛子、吉原和郎、その他の方々。

美智子のこんな話

岸田 美智子

自立生活センター

MY-DO(まいど)の活動とは…

自立生活支援センター「MY-DO」が5月23日(土)に設立集会を開き、いよいよ動き出します。

そこで改めて「MY-DO」の趣旨文を掲載させていただきます。

趣旨文

国から出されている障害者プランの内容は、施設収容型から在宅や地域で共に生きていくための24時間介護保障の実現へと変

わってきました。そして、そのことを中心

に据えた「市町村障害者生活支援事業」を打ち出してきました。この制度は、日本版

CIL(自立生活センター)と呼ばれ、内容としては、障害者当事者がサービスの提供者側になり、いろいろな障害者へ自立生活に必要な「情報提供」や、同じ障害者同志が精神的な相談を行う「ピア・カウンセリング」の実施、そして、自立生活のノウハウを身につける「自立生活プログラム」の実施などです。これらの事業内容に、私たちの自立生活センターでは、障害者の自立生活に欠かせない介助者派遣や、権利擁護の問題にも、取り組んでいこうとしています。

そして、日本は超高齢化社会を向えようとしています。それを支えていく基盤として介護保険制度の導入が考えられています。これは、介護の問題を、全ての人の問題としてとらえているところは評価できるものの、新たに介護保険料の負担や、そのサービ

ビス内容についても、家族の手助け程度しか考えられておらず、重度障害者などの全ての人が豊かな生活を地域で保障でき

～まいど～ 自立生活センターMY-DO設立集会

日時=5月23日(土)午後12時30分～4時

場所=ピア大阪4階ホール

(大阪市東住吉区南田辺1-9-28)

早川福祉会館内

TEL06-622-1180

講演=「重度障害者の自立生活は障害者の文化を創り出す」

講師=鯛「麩」餅 金満里氏

参加費=500円

連絡先=TEL06-607-8260

FAX06-607-5503

るものではありません。

そのような中で障害者の生活はどんな状況でしようか。多くの障害者は地域で生きていくための制度も知らされず、どうにか社会参加できるものの、低賃金で使われたりして身体をこわし、二次障害や疲労がたまり、障害の重度化を招くことが多いのが現実です。介助が必要とする障害者は、社会参加を拒まれ、住宅や入所施設での限られた生活をよぎなくされています。このような、在宅や施設での生活は、家族や職員になるべく負担をかけないように、トイレ

やお風呂に入ることなどでさえ我慢してしまったりしなければならず、一日中テレビを見たりして過ごす場合がほとんどです。

その結果、自分の介護の内容を人に伝えたりすることができず、自分で決定する事が苦手であったり、何をどう伝えていけばいいのか分からない状況におかれ、その多くは、子供扱いされたりしています。

私たちは、このような社会状況を変えていくため、全ての重度障害者もこの社会の中で自己決定・自己選択ができ、在宅や施設の生活だけでなく、その人らしい自立生活を実現していく力を取り返していったほしいと願っています。そのためには、障害者自身が家族や施設職員に自分の自立生活への希望をどのように伝え、どう説得していくかがとても重要になってきます。このようなお手伝いを、地域で自立生活をエンジョイしている同じ障害者がカウンセラーとなり自分の体験を元にアドバイスを行う、ピアカウンセリングを行っていきます。

地域での生活を始めるにあたって、その生活費をどうするのか、自分にとって住みよい住宅がどんな場所にあるかを、どうや

って探すのか? どのように改造するのか、介助サービスは、公的サービス、民間サービス、ボランティアのどの時間に配置するのか、このような障害者の特有の様々なニーズに対して、適切な情報や助言をできるピアカウンセラーが相談にのっていきます。このようなケアマネジメントは、高齢化社会の問題解決の糸口にもなると思います。そして、自立生活を実際に体験してみる自立生活プログラム講座の実施や相談活動の中からみえてきたいろいろな生活場面での人権侵害の問題についても取り組んでいきたいと思っています。

ひとりでも多くの障害者が地域社会の中で一市民としての責任を果たし、よりその人らしい楽しい生活を作っていくことを私たちはお手伝いしていきたいと思っています

以上

☆ライフ・ネットワーク

〒五五八-〇〇〇一

大阪市住吉区大領五-十一-十六

TEL 〇六-六〇七-八二六〇

FAX 〇六-六〇七-五五〇三

~~~~~朗読テープのご案内~~~~~  
朗読グループ「ぼけっと」のご協力で、  
△サロン・あべのV紙一四〇号の録音テープが出来ました。

五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本に△サロン・あべのV十周年記念誌「はあとが、はろー!」は、九〇分テープ二本と一二〇分テープにそれぞれ収録されています。  
又、絵本「未知の記憶」(作・絵||中川勝彦)、「ラジオたんば」(三〇分)放送の『△サロン・あべのV平成七年五月の出会い』、エッセー集「逃げたクヨナククボラ」(岡本栄一著・表谷恵美子音訳)もあります。

本紙のバックナンバーが表谷恵美子さんのご協力で一号からそろいました。

いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。

(8) 〇六-六九-一-〇二八





サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」4月の出会い

日時；4月19日(日)午後1時30分～午後4時

場所；「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容；「パソコンからの出会い」

～障害者やウクレイシャとのふれあいや相互理解を

パソコンを通じて深め合う～

パネラー；宿南 勝氏

パソコン・ボランティアグループ「ほこあほこ」代表

会費；なし

問い合わせ先；淀川区社協 ボランティア・ビューロー

TEL06-394-2900

■「サロンつるみ」4月の出会い

日時；4月 6日(日)午後1:30-4:00

場所；大阪市立鶴見会館2階

[鶴見区横5-5-51]

内容；「あるがままに

ノーマライゼーションとは…」

～障害を理解する(障害者ではないです)～

パネラー；サロン淀川代表 =窪田新一氏

ウイズ東淀川代表=鈴木昭二氏

会費；なし

問い合わせ先；TEL06-913-7070

(鶴見区ボランティア・ビューロー山本)

■《てくてく・すみよし》4月の出会い

日時；4月5日(日)午後11時～3時

集合場所=長居障害者スポーツセンター

[TEL06-697-8681]

内容；「園芸&お花見」

花を見て楽しんで植えよう！！

場所；長居公園内

参加費；1200円

(弁当・園芸セット含む)

締め切り；3月末日

お申込み・お問い合わせ先；

TEL06-692-8411(山本)

■「サロンいたみ」4月の出会い

日時；4月 4日(土)午後2時～

場所；昆陽池[伊丹市]

内容；「伸幸苑の皆さんとお花見」

車イス介助出来る方ご参加を…

参加費；無料

主催；すみれ会(ボランティアグループ)

共催；伸幸苑(0727-78-6765)

連絡先；TEL0727-83-5487

(橋本、17時以降にお願いします)

■第1回「出会ボランティアサロン」

日時；4月30日(木)午後6時半～

場所；岸和田市立労働会館2階会議室

[岸和田市沼町25-13

TEL0724-23-8895]

内容；「サロン活動に学ぶ」

～ボランティアは一方的な援助

でなく共に創るものだ～

パネラー；和川 謙 窪田新一氏

ウイズ和川 謙 鈴木昭二氏

参加費；無料

お問い合わせ先；TEL0724-22-0686(阪井健二)

# さきみみずきん

「春爛漫…今昔」

雪も水も結晶にして見ると、花のような六角形模様が出来ているようですが、汚染されている雪や水のそれは形がいびつになっっているそうです。空からの便り、天からの手紙等と夢を与えてくれる雪、生活の根幹になる水等に少なからず異変が見られるということは、21世紀の自然界が気がかりになってきます。それに最近の八百屋や花屋さんのお店先には季節感が薄れてきました。特に花の様相が変わってしまったように感じます。

しかし、桜だけは季節に合わせて咲いてくれるようです。今年も早々と桜前線予報が出され

ています。暖冬の春は少し遅れ気味とか、桜は寒さの中で蕾を育むらしいです。阿倍野区近辺には、昔から桜を楽しめる所が何か所もあり、そここでの思い出も年代によって異なってきます。長池・阪南・万代・長居・桃ヶ池公園等や住吉配水場そして、身近な近所の家の一本の桜木。「年々歳々、花相似たり、歳々年々、人同じからず」唐詩選の句に希いを託すわけではないけれど、人の心は移ろい行きても桜の花だけはいつの世にも春を運ぶ使者であってほしいと願っています。

(け)



## FROM EDITOR

編集後記

先月、どこでどうまちがえたのか、大分あとになって、「作る つくる 創る」——お菓子の話——が宅配便で届けられたものですから、無断休載止むなしということに。

まあ、いいじゃないでか、お話の賞味期限なんて、カタイこといわないで、今月、ゆっくりおいしくお召し上りくだされば…。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.141[’98. 3.21.発行] 定価¥100.  
 代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365  
 連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028  
 表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子  
 郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941  
 印刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスタービル2F ☎06-719-8212 ☎06-719-8213